

平成26年度 第1回FD研修会 議事録

日時：平成26年5月30日（金） 16：30～18：00

場所：25番講義室（講義棟2階）

目的：共同獣医学課程における国際認証（獣医学教育の質保証）に向けての進捗状況について、大学全体で情報を共有し理解を深めることを目的とする。

対象：全教員

スケジュール

司会：小池教授

16：30～16：40

開会挨拶 長澤学長

16：40～17：10

講演「平成26年度のFD研修会について」

金山理事

17：10～17：40

講演「共同獣医学課程の国際認証に向けた取り組み」

倉園副学長

17：40～18：00

質疑応答

司会：小池教授

書記：橋本准教授、松井准教授

【全体質疑応答内容】

押田教授：最終的にアメリカ、EUどちらの認証をとるのか、どちらを向いて対応する？

倉園教授：もともと、アメリカが認証システムを作った。EUはそれを追随した形で、出来ている認証システムである。これらが共通のスタンダードを作っている最中である。その上、豪州もつながって、世界水準の1つのシステムをつくると思われるので、ひとまず向こうにあわせないといけない。

EUは多くの国が含まれるため比較的多様性があり基準的に少しゆるい。そのなかで日本はEUではないので、先方の審査の際にどのような基準で審査されるかわからないので怖い。また、認証を取ってから10年ごとに審査があるため、これがまた厳しいと予想される。

長澤学長：共同獣医学課程の国際認証への取り組みが、畜産科学課程のほうにどのように関わっているのか？

なんで本学が、このような内容をやらなければいけないのか？

聞きに来ている人たちは、これらをもっと聞きたいのではないのか？

細かい個別の取り組みの話ではなく、大きな取り組みの話をしてほしい。

金山理事：本学の教育を国際化・高度化していく上で、共同獣医学課程の取り組みは重要と認識しており、個々の設備やシステムのブラッシュアップが、本学の「食を支え、暮らしを守る」人材育成の方向性にか

なうことになると考えている。

長澤学長：第一に、本学の取り組みを語るときに「Farm to Table」という考え方を大事にしたい。その上で大学の方向性がグローバル人材育成であるのだから、獣医教育が国際認証を取っていくことが目的なのではなく、教育方針を進める方策の中の1つとして国際認証獲得である。実際に審査で足りない指摘されている部分は、疫学、畜産方面、リベラルアーツであり、これは獣医以外の大学全体で推進すべき内容であり、これは本学の進むべき方向性と一致している、と考えている。

小池教授：他の共同獣医学課程大学との違いや連携などは、どうするのか？

倉園教授：今回の畜大北大の共同獣医学課程は、唯一大学間連携でやっているベツトスイスを参考に作っている。他の獣医連携大学は、大学間の距離が離れているので、うちは北大との距離が近く、実習など密に対応出来る利点がある。現状では内側を向いて課題に取り組んでいる状況で、他大学についてはあまり考えているわけではない。

小池教授：大学院教育をふくめて、この後どうなっていくのか？

倉園教授：本当は大学院をこの上に立てたいと思っている。そのため、畜産衛生の方をうまくかえていくのが理想。しかし現実的には、今のところ連合大学院はこちらだけでは決められないのでしばらくはこのままいくことになる。

小田理事：獣医岐阜連大は今後方向性を見定める必要がある。しかし、他大学を巻き込むため影響が大きいので、全体の動向を見ながら。岩手連大に関しても、変更する場合も含めて、もうしばらく先になる。

木田教授：今回あまり話されなかった、生涯教育などの問題の取り組みも説明してほしい

倉園教授：衛生関連のプログラムをつくるなどや大学院をどうするなど、まだ課題が残っているのは認識しているが、まずは今足りないものをクリアしている状況で、生涯教育などは、その次のステップとして検討したい。

橋本善春特任教授：大学院のレベルアップは喫緊の課題である。他の大学同士も提携を結び出している。東大と北大のみが独自の大学院を持っているが、ある程度この改革が完成した暁は、各大学の上により充実した大学院をおくべき。そのため、本学でも将来のために若手の方を始め、よりこの方面からも準備してほしい。

小池教授：大学院の組織のねじれがあるのはどう対応するのか？

長澤学長：問題は認識しているが、現在は改革が始まったばかりで、この2年間はとりあえず改革にむけてきちんと対応しなくてはいけない。急ぎではあるが、方向性を含めてこれからの課題である。

橋本准教授：今回の獣医の改革に際して、入試の体系はこのままか？
学生の定員は？

倉園教授：入試に関しては、各大学でやっていく。学生の定員は、教員数が少ないため学生を増やすわけにはいかない。

FDについての質問

押田教授：FDの回数については、このように決めて計画的にやっていくのが

良いのか？FDの企画については教育支援室がやっているが、他の分野ごとに分散させてやっても良いのでは。

金山理事：教育支援室がやっているのは、狭い意味でのFDとしてとらえている。そのため限界があることはわかっているが、柔軟に対応するつもりである。今後全体の意見を見ながら、いろんなところでやるべきなのは把握しているので今後検討する

小池教授：計画については、これも各支援室との連携のもと行っているので、今後ともフレキシブルに対応したい。

長澤学長：FDの開催時間が遅いのでは。他にも長いなど少し問題では。

橋本善春特任教授：前任地でFD委員をやっていたが、ある程度小さく短くやることもあった。若い先生と協力して内容を考えたりしていた。職員の方々へのSDも大事で、他大学の内容を取り入れても良いのでは。

以上

出席者	教員	59名
	職員	7名

平成26年度のFD研修会について

理事・副学長
金山紀久

FDとは

- FDは、学問の府としての大学（制度）の理念・目的・役割を実現するために必要な「教員の資質改善」または「教員の資質開発」を意味する。
 - － 広義
 - 広く研究、教育、社会貢献、管理運営の各側面の機能の開発で、それらを包括する組織体と教員の資質改善・開発を意味する。
 - － 狭義
 - 狭義のFDは主に諸機能の中の教育に焦点を合わせる。教育に関するFDは、本学の教育のミッションを達成するために必要な、教育内容（専門教育と教養教育）、カリキュラム開発、教育技法などに関する教員の資質改善・開発を意味する。

（有本章著『大学教授職とFD』の内容を参考に）
（文部科学省、中央教育審議会大学分科会制度部会）

FDの活動例

1. 大学の理念・目標を理解するワークショップ
2. ベテラン教員による新任教員への指導
3. 教員の教育技法(学習理論、授業法、討論法、学業評価法、教育機器利用法、メディア・リテラシーの習熟)を改善するための支援プログラム
4. カリキュラム開発
5. 学習支援(履修指導)システムの開発
6. 教育制度の理解(学校教育法、大学設置基準、学則、履修規則、単位制度f度)
7. アセスメント(学生による授業評価、同僚教員による教授法評価、教員の諸活動の定期的評価)
8. 教育優秀教員の表彰
9. 教員の研究支援
10. 研究と教員の調和を図るシステムと学内組織の構築の研究
11. 大学の管理運営と教授会権限の関係についての理解
12. 大学教員の倫理規程と社会的責任の周知
13. 自己点検・評価活動とその活用

大学の目的

＜目的＞

- 広く知識を授ける。
 - 深く専門の学芸を教授研究。
 - 知的、道德的、応用的能力を展開させる。
-
- 目的を実現するために
 - － 教育研究を行う。
 - － 成果の社会還元

＜学校教育法＞

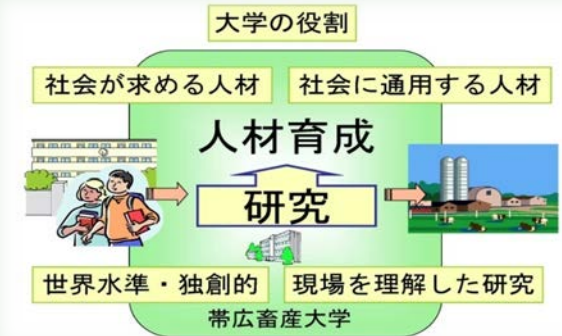
第九章 大学

第八十三条 大学は、學術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

2 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

帯畜大型グローバル人材育成に向けた学士教育の改革

「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献することをミッションに掲げ、地球規模課題の解決を視野に入れた農業分野の専門知識・技術の教育研究を通して、国際性のある人材育成を目指している。第2期中期目標期間においては、幅広い見識と国際性を有し、実践力のある人材の育成を目標としている。



帯広畜産大学のグローバル人材育成

学 際

獣医学と農畜産学の広い視点

国 際

世界規模の広い視点

実 学

社会で通用する学問の視点

食を支え、暮らしを守る「国際専門職業人」
【帯畜大型グローバル人材】

国内外の課題解決

食料安全保障

感染症対策

気候変動

FTA・TPP

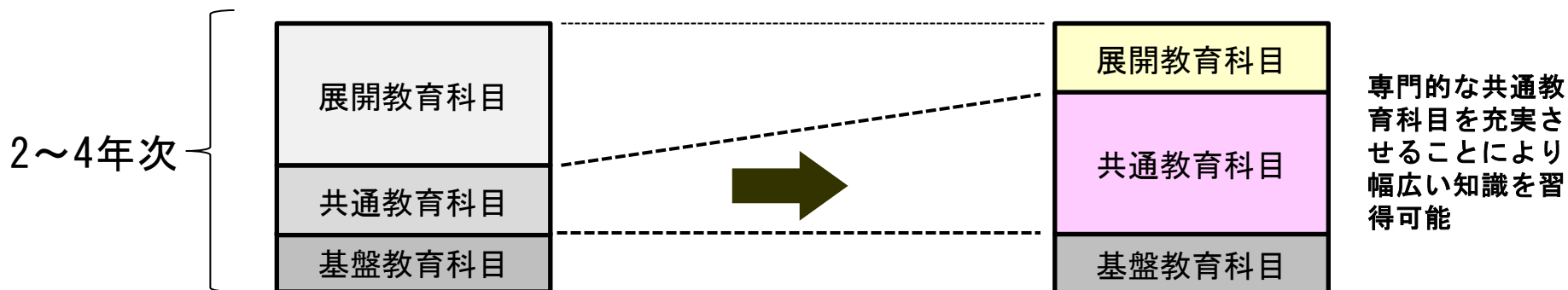
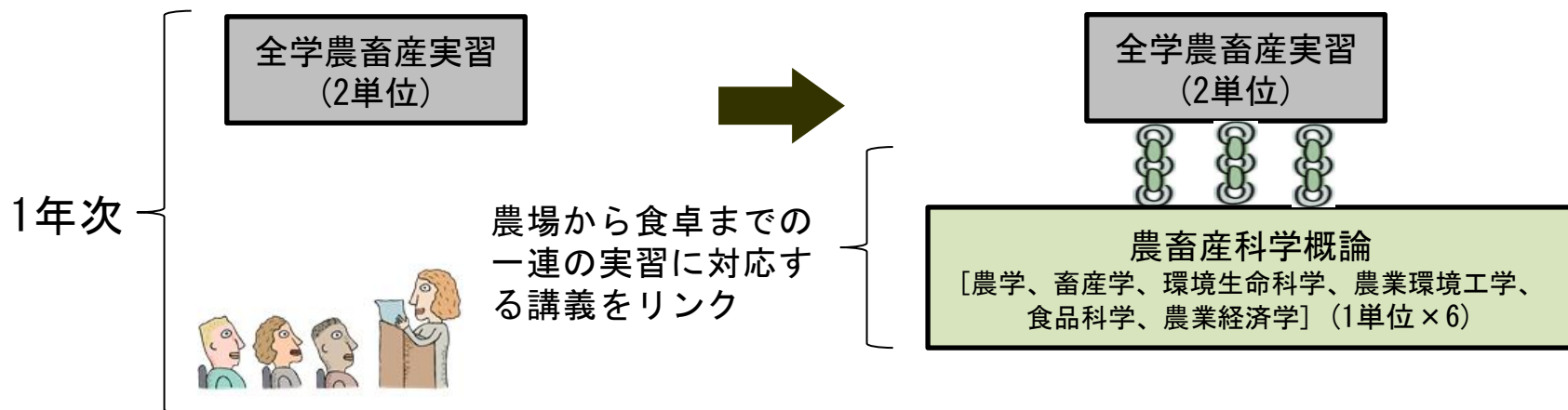
エネルギー

環境保全

etc



学際教育の充実



国際教育の充実



共通教育科目

国際教育科目

- 国際ボランティア論
- 国際農業開発協力論
- 国際比較畜産論
- 海外実習
- 国際協力ディベート論
- 海外フィールドワーク
- 国際開発フィールドワーク
- Advanced seminar

1～4年次

基盤教育科目

生きる基盤（国際科目）

- 日本と世界の食文化
- 日本と諸外国の酪農
- 比較美術史
- 国際関係論
- 表象文化論 各2単位

1～2年次

新設

2～4年次

生命科学ユニット

家畜生産科学ユニット

食品科学ユニット

環境農学ユニット

農業経済学ユニット

畜産国際協力ユニット

家畜生産科学ユニット

環境生態学ユニット

食品科学ユニット

農業環境工学ユニット

植物生産科学ユニット

農業経済学ユニット

国際教育
アドバンスモデル



- ◆ 英語の必修化
- ◆ 英語以外の外国語の選択必修化

どのユニットに所属する学生も
国際プログラムを履修可能



実学教育の充実



共通教育科目

1～2年次

食の安全学概論
[危害要因分析、食品安全マネジメントシステム、食品安全のための行政・社会制度] (2単位)

キャリア教育I (2単位)
キャリア教育II (2単位)

畜大グローバル
人材育成講座

全学農畜産実習施設

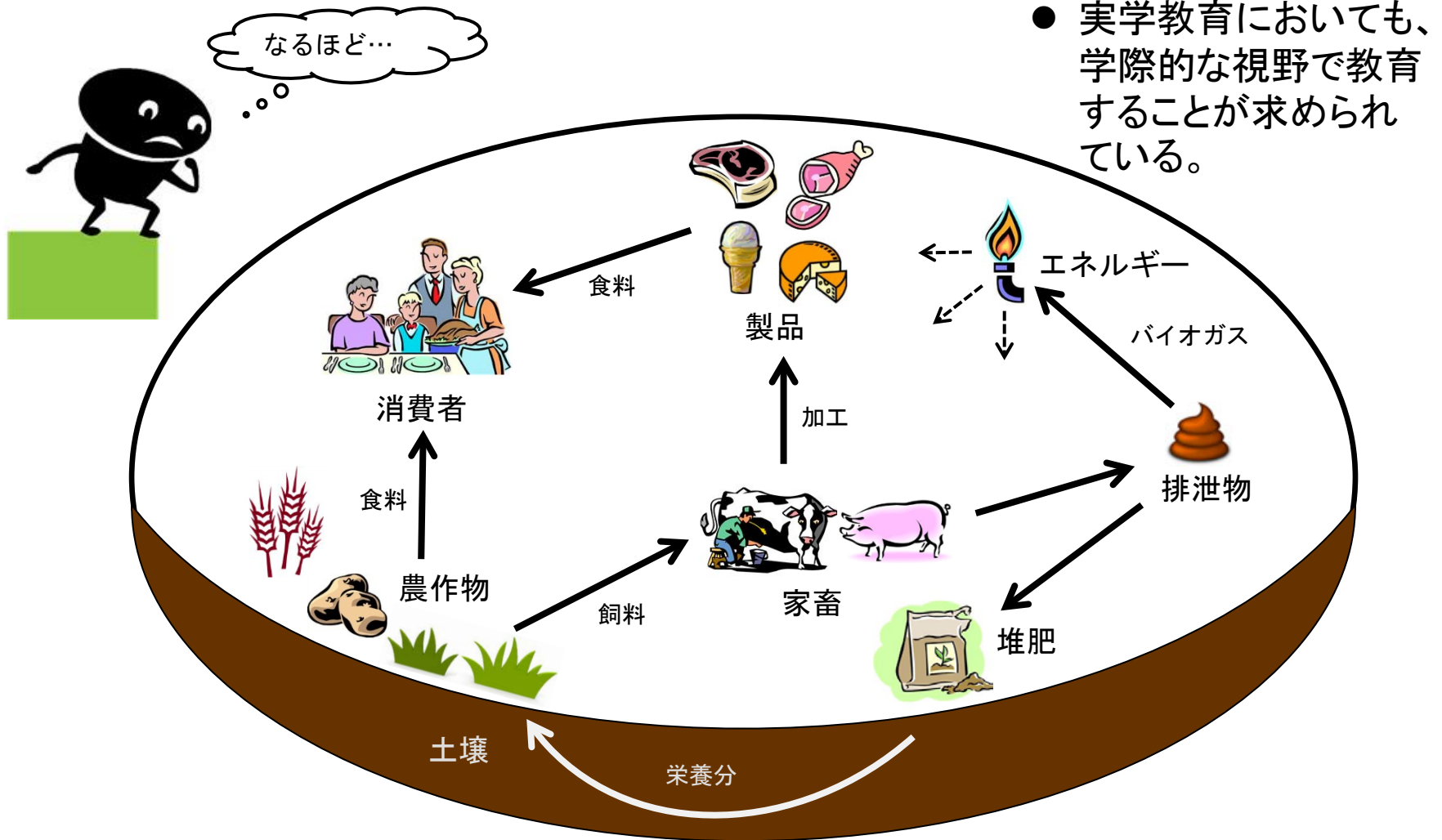
食品加工実習施設

製パン実験施設
「とがち夢パン工房」



1～4年次

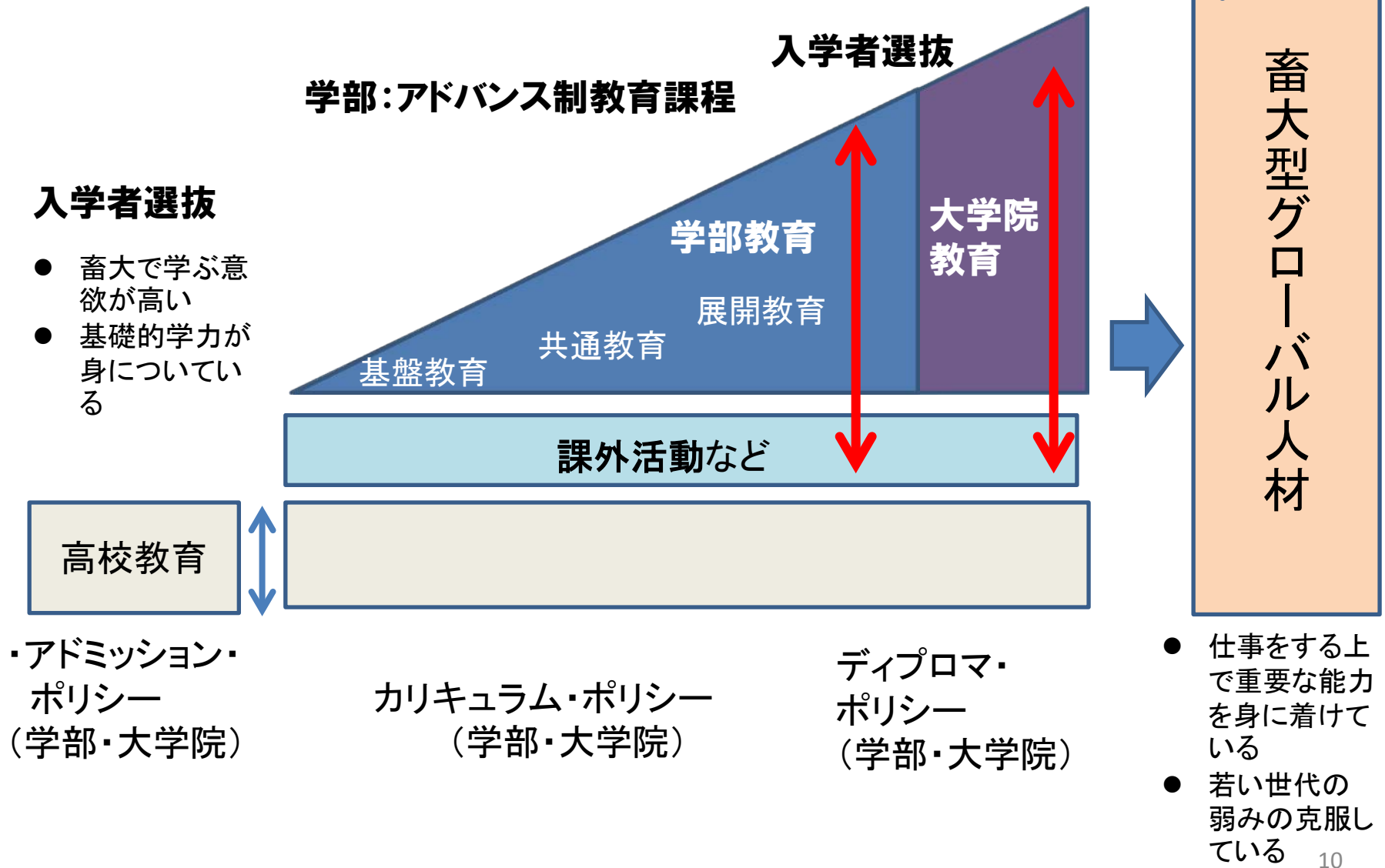
帯畜大型グローバル人材育成のための 実学実習で学ぶ内容



大学の教育

食を支え
くらしを守る人材

就職



仕事をする上で重要な能力

- コミュニケーション能力（ゼミナール等）
- 問題解決能力
- 問題発見・課題設定能力
- 実践力
- 基礎知識・基礎学力（基盤教育・共通教育）
- 専門的な知識（共通教育・展開教育）
- 語学力（基盤教育）
- 専門分野における学術的な知識（大学院）

卒業研究
課題研究
特別研究

若者世代の弱み

- **忍耐力(73. 8%)** 「経済同友会教育委員会(2003年)」
- 問題解決能力(54. 6%)
- 市民としての自覚(52. 8%)
- 課題発見能力(46. 2%)
- チャレンジ精神(45. 9%)
- 責任感(45. 7%)
- 論理的思考力(45. 1%)
- 教養(36. 8%)
- 創造性(36. 2%)
- コミュニケーション能力(28. 4%)



教育における課題

- 本学が目指す教育の方向性を理解する。
- 主体的な学びを促す教育
 - 教育方法(科目の目標に適した方法)
 - シラバスの作成の仕方
- 学修成果の評価
 - 身についた能力の評価方法 ⇔ 教育方法と関係
 - 学生の満足度、達成度
 - 進学・就職の状況
- 履修モデルと就職支援
 - 履修モデルの構築
 - キャリア教育
 - 進学・就職支援
- グローバル人材育成
 - グローバル人材の育成と国際教育アドバンスモデル
 - 語学教育の支援の強化
- 今日の学生が必要とする学生支援の理解



就職活動に見られる学生の問題

- 本学学生の就職活動において、学生の対応に問題があることが苦情として寄せられている。

<事例>

- 企業における面談での「すっぽかし」。
 - インターンシップでの消極的態度。
 - 出張就職相談会で登録している学生が事前に連絡なしに欠席する。
 - 就職ガイダンスに事前登録しているにもかかわらず欠席する。
- 指導教員から、就職活動におけるイロハについて指導することが必要となっている。

アカハラ・パワハラに注意

- 昨年度から今年度にかけて学生と教員との間で生じるハラスメントの相談件数が増加傾向。
- 研究室所属の学生とのコミュニケーションについて今一度振り返って、ハラスメントに当たらないか確認することが求められている。
- 問題となるコミュニケーションの例

- － 精神的な攻撃
- － 過大な要求
- － 人間関係の切り離し
- － 個の侵害
- － 選択権の侵害



問題となるコミュニケーションの例

- 精神的な攻撃
 - 複数の学生がいる場所で特定の学生の成績について言及する。
 - 学生を軽視もしくは侮蔑する。
- 過大な要求
 - 課題の量や提出期限を到底達成できないように設定する。もしくは心身の健康に影響するほど過酷な課題設定をする。
- 人間関係の切り離し
 - 学生の報告や提出した書類をきちんと受け取らない。もしくはそれらに対して反応しない。
- 個の侵害
 - 交際相手の有無について聞き、それについて否定・悪口を言う。
- 選択権の侵害
 - 就職・進学 of 妨害。本人が望まない進路を選択するよう強要する。

平成26年度のFD研修実施計画

回	日程	テーマ	担当
第1回	平成26年 5月30日(金)	共同獣医学課程の国際認証に向けた取り組み	倉園教授 小池教授
第2回	7月中	シラバス作成の実際と成績評価の基準と方法	福島教授 木下准教授
第3回	9月中	教育支援と就職支援の現状と課題	柳川教授 耕野准教授
第4回	10月中	学生相談室の利用状況から見た要支援学生への対応	中村教授 守谷相談員
第5回	11月中	自学自習を促す教育方法と教育評価方法の検討	小池教授 加藤教授
第6回	平成27年 1月中	本学が取り組む海外プロジェクト研究と教育連携の現状と課題	河合准教授 小疇教授

テーマ設定の目的(1)

- 共同獣医学課程の国際認証に向けた取り組み
 - 獣医国際認証を得るために現在行われている事業等内容説明と、今後の課題を全学教員の共通認識とする。
- シラバス作成の実際と成績評価の基準と方法
 - 望まれるシラバス形式の改善と成績評価の方法について、背景の説明と具体的な対応の紹介により、全学教員の時期シラバス改善を促す。
- 教育支援と就職支援の現状と課題
 - 3か月後ろ倒しになる就職活動への対応、及び、新規に始まる教育支援と就職支援にむけたキャリア教育への新しい取組と、履修モデル構築への試みについて、全学教員の共通認識とする。

テーマ設定の目的(2)

- 学生相談室の利用状況から見た要支援学生への対応
 - 学生相談室を利用する学生と教員の事例紹介と今後必要とされる取組について、特に研究室での要支援学生の具体的な対応などの必要性の認識を教員間で共有する。
- 自学自習を促す教育方法と教育評価方法の検討
 - 自学自習を促す教育方法と教育評価方法の検討に向けた取組を紹介すると共に、シラバス作成実施の具体的案内をすることで教員間での本件への認識を高める。
- 本学が取り組む海外プロジェクト研究と教育連携の現状と課題
 - 本学がパラグアイ、マラウイ、モンゴル等で行う海外プロジェクト研究の紹介と、海外との教育連携の現状、及び国際協力ユニット解消後の国際教育アドバンスモデルにおける教育の連携等について、全学教員で共通の認識をもつ。

是非、FD研修会に 参加しましょう！

おしまい



獣医学共同教育課程の国際認証に 向けた取り組み

獣医学教育国際認証推進室
倉園久生

獣医学共同教育課程開設への道のり

1. 戦略的大学間連携プログラム(H21: 畜大・北大・酪農大)の申請

獣医学教育ワンダーランド北海道: 3大学と自治体・民間で作る獣医学教育連合

文部科学省: 社会の期待に応える教育改革の推進

2. 国立大学改革強化推進事業(H24: 畜大・北大)の申請

獣医学共同教育課程の開設

3. 国立大学改革強化推進事業(H24: 畜大・北大・山大・鹿大)

国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築

最初の試み:H21年

世界水準の獣医学教育の実施に向けた取組

北海道大学
帯広畜産大学
酪農学園大学

1. 「戦略的大学間連携プログラム」の申請

【北海道大学、帯広畜産大学、酪農学園大学】

○事業名

獣医学教育ワンダーランド北海道:3大学と自治体／民間で作る獣医学教育連合

○実施期間 平成21年度から23年度

○申請金額 毎年約1億円程度

○取組概要

- ・ 講義・実習科目からモデル科目を選択し、3大学間で相互乗入による補完を行う。特定の施設・設備等の環境が望ましい実習等については、学生の大学間移動を実施する。補完授業は相互に単位認定する。
- ・ 家畜保健衛生所、畜産試験場等の施設を利用し、自治体・民間獣医師指導の下、学生が2週間程度滞在し、実践的教育を行う。

2. 獣医学教育に関する「共同教育課程」の実施

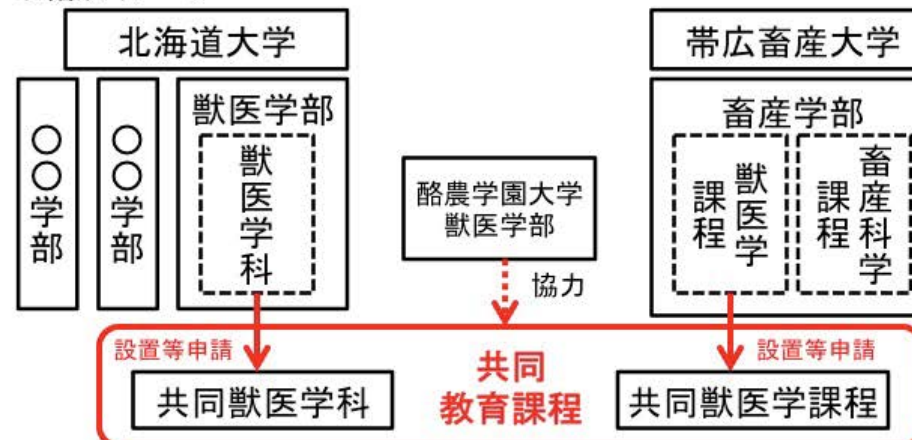
【実施主体:北海道大学、帯広畜産大学 協力:酪農学園大学】

○開始時期 平成24年4月(目標)

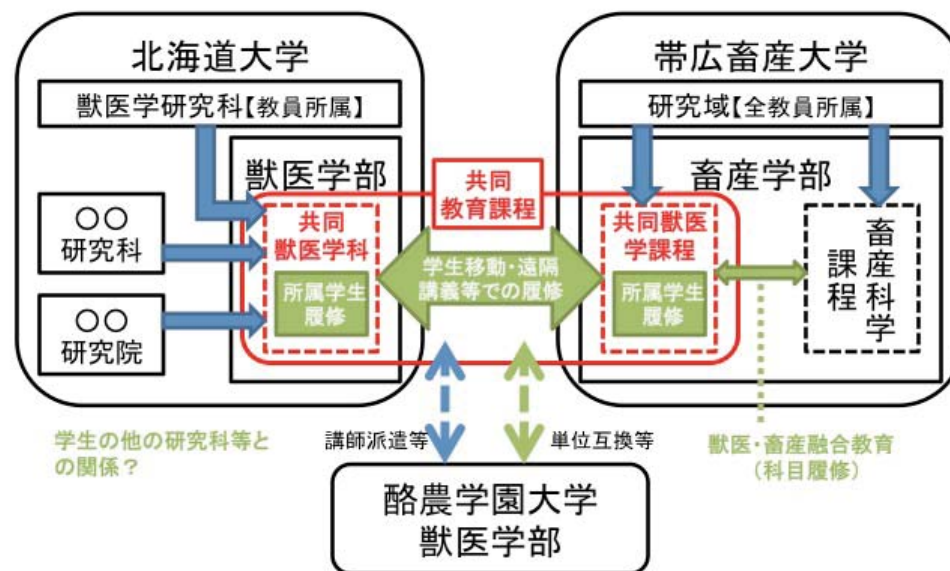
○入学定員 北海道大学獣医学部獣医学科 40人

帯広畜産大学畜産学部獣医学課程 40人

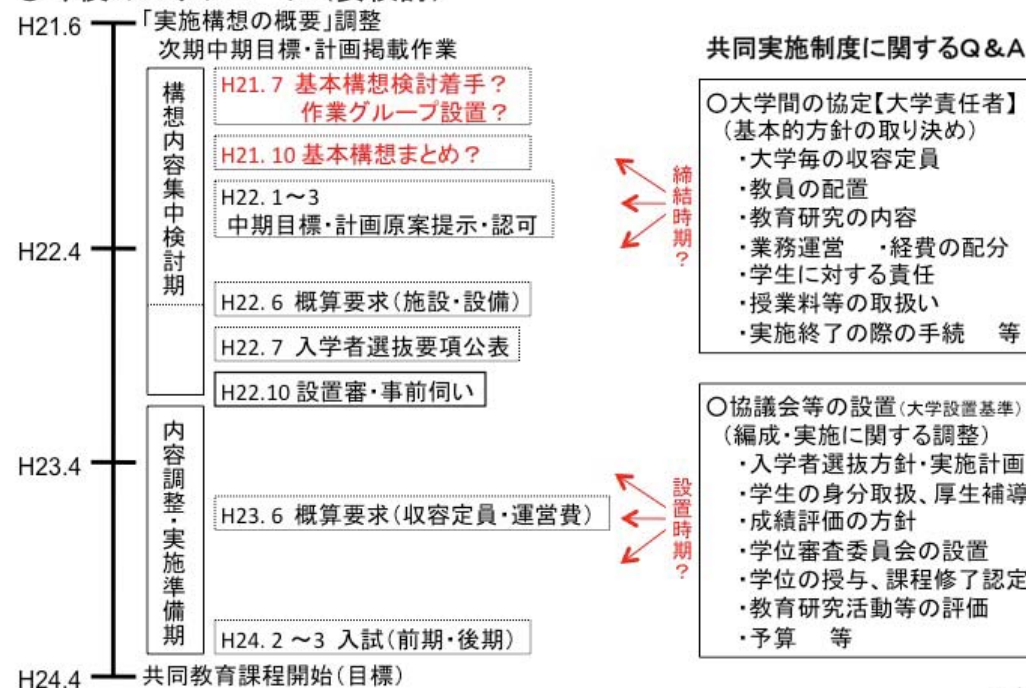
○編成イメージ



○教員・学生との関係イメージ【→ 教員の課程担当、→ 学生の履修】



○今後のスケジュール(要検討)



「獣医学共同教育課程」設置構想の概要

平成21年12月

北海道大学
帯広畜産大学

なぜ、共同獣医学課程？

【本来の獣医学】

- ・ 家畜の疾病を診断・治療することで生産性を向上させ、安全で良質な畜産物を供給すること：

畜産学の一部



人間社会・産業構造・地球環境の急激な変化に伴う獣医学に対する社会の要請の多様化



【現代の獣医学】

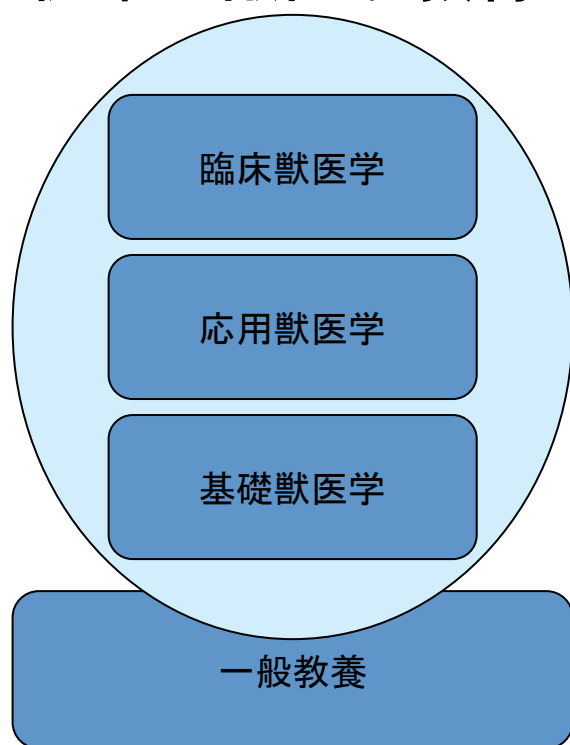
- ・ 診療範囲の拡大：家畜・家禽から伴侶・水棲・野生動物へ
- ・ 伴侶動物に対しては人と同程度の診療レベル
- ・ 人獣共通感染症の予防と制圧
- ・ 医薬品の開発
- ・ 環境保全型畜産のための管理衛生
- ・ 食の安全を保障するための公衆衛生
- ・ 地球環境と動物生態系の保存
- ・ 動物福祉の科学
- ・ 生命科学の進展への寄与



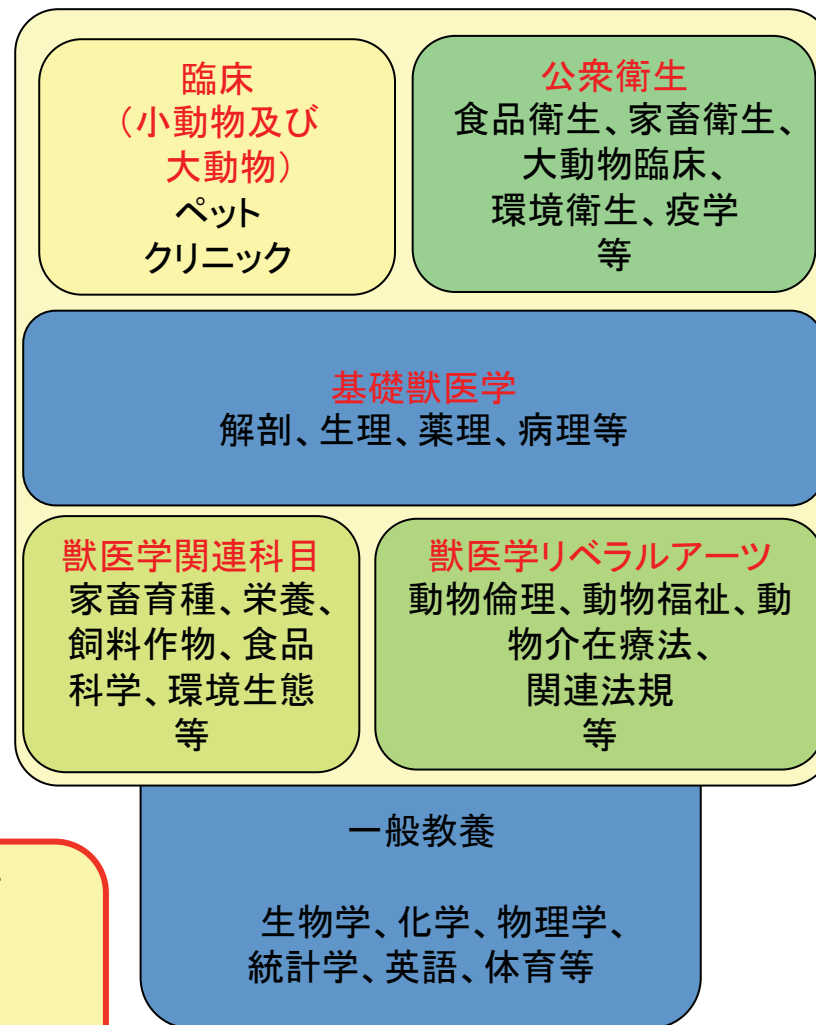
社会的ニーズに対応
北大：小動物臨床
人獣共通感染症
畜大：大動物臨床
食品・公衆衛生

獣医学教育の改善・充実

従来の獣医学教育



世界水準の獣医学教育



【文部科学省】
獣医学教育の改善・
充実に関する調査
研究協力者会議

グローバル化

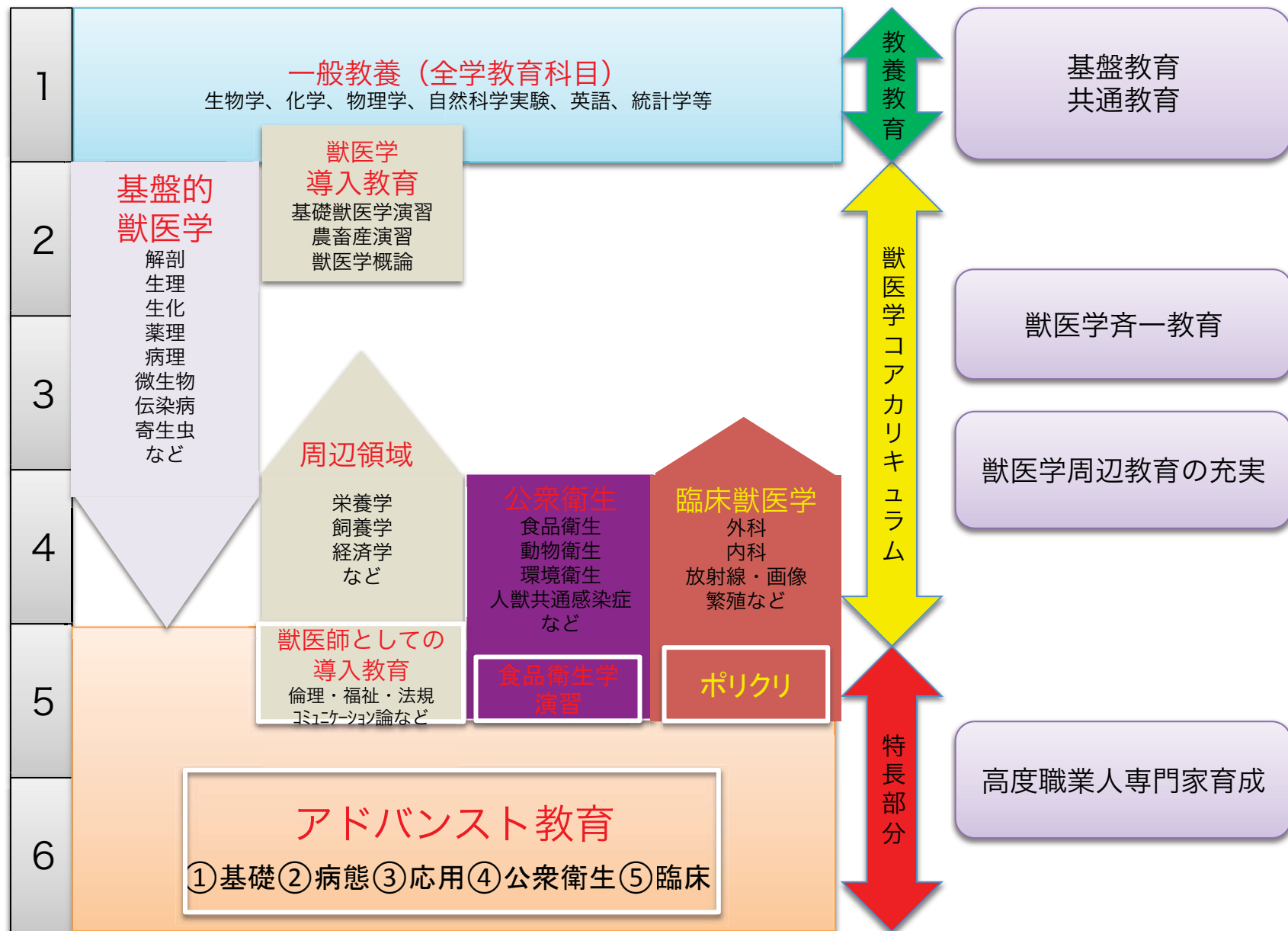
【OIE】
獣医学教育の世界水準作成
1. 動物福祉
2. 獣医疫学
3. 食の安全
4. 公衆衛生

米国の水準に対抗してEUの世界水準をOIEが策定準備

日本、中国、韓国、台湾が蚊帳の外

今のままでは、国際貿易、国際防疫に関する
アジアのリーダーが不在になる！

共同獣医学課程の教育



社会の期待に応える教育改革の推進

平成24年6月4日
文部科学大臣 平野 博文

教育改革の7つのポイント

①小中一貫教育制度・高校早期卒業制度の創設(六三三制の柔軟化)【H24年度～検討・実施】、**少人数学級の推進**【H23年度～逐次実施】

②大学入試改革

- クリティカルシンキングを重視した入試への転換【H24年度～検討着手】
- TOEFL等の入試での活用促進【H24年度～】

③大学の教育機能の再構築とミスマッチ解消

- 大学生の学修時間の欧米並み実現【H24年度～】
- 社会ニーズ等を踏まえた学科等再編、産学人材育成プラットフォームの拡大・強化【H24年度～】

④英語力・グローバル力の向上

- 20代前半までに同世代の10%が海外留学等を経験【H24年度～】
- 高校生の英語キャンプの全国的展開【H24年度～】
- 国際化拠点大学(40大学)を指定し、卒業時の到達水準(TOEFL100点等)を設定【H24年度～】

⑤国立大学のミッション再定義と重点支援

- 全ての国立大学毎のミッションを定める「国立大学改革プラン」を策定【H25年央】
- ミッションに応じたメリハリある支援【H25年度～】
- 一法人複数大学方式等の制度的整備、大学・学部の枠を越えた連携・再編成等を促進【H25年度～検討・実施】

⑥学生の75%を占める私学の質的充実に向けた支援・メリハリある配分

- 多様な「分厚い中間層」など私学の特色発揮に向けた支援・メリハリある配分【H24年度～】
- 「設置認可→大学評価→是正措置」にわたる質保証システムの確立(適応できない大学に厳しく)【H24年度～】

⑦世界で戦える「リサーチ・ユニバーシティ」の倍増【H24年度～逐次実施】、地域再生の拠点としての大学の機能強化【H25年度～逐次実施】

国立大学改革【ロードマップ】

24年度	25年度	26年度～
改革モデルの先行実施 改革の基本方針の提示	改革の集中実施期間	

国立大学改革の先行実施

国立大学改革強化推進事業
(H24年度予算:138億円)

➤ 大胆な改革を重点的に支援

(取組のイメージ)

- ・研究面での最高水準の拠点形成
- ・機能別・地域別の大学群形成に向けた連合連携
- ・効率的な大学運営のための事務処理共同化

- ・教育の質保証と個性・特色の明確化
- ・大学運営の高度化

国立大学の
新体制構築、
機能強化に向けた
改革の加速化

国立大学改革基本方針

《24年度中》

国として改革の方向性を提示

- 教員養成、医学、工学のミッションの再定義
→大学・学部の設置目的を明確化し、公的教育機関としての存在意義を「見える化」
- 改革促進のためのシステム改革
 - 大学関係予算の戦略的・重点的支援
→各種指標を踏まえて支援対象を絞り込み、重点的に支援
 - 大学間連携、組織改革の促進
→国立大学改革強化推進事業により大胆な改革を重点的に支援

国立大学改革プランの策定

《25年央まで》

大学ごとにミッションを再定義し
改革の工程を確定※

- 全大学・学部のミッションの再定義
- 改革促進のためのシステム改革の加速
 - 予算の戦略的・重点的支援の拡大
 - 必要な制度改正の検討、提案
(例) ・多様な大学間連携の制度的選択
(一法人複数大学(アンブレラ方式)等)
・国立大学法人の評価の在り方
・財務上の規制緩和
・国立大学のガバナンスの強化

大学の枠・学部の枠を越えた再編成等へ

- (例) ・「リサーチ・ユニバーシティ」群の強化
・機能別・地域別の大学群の形成

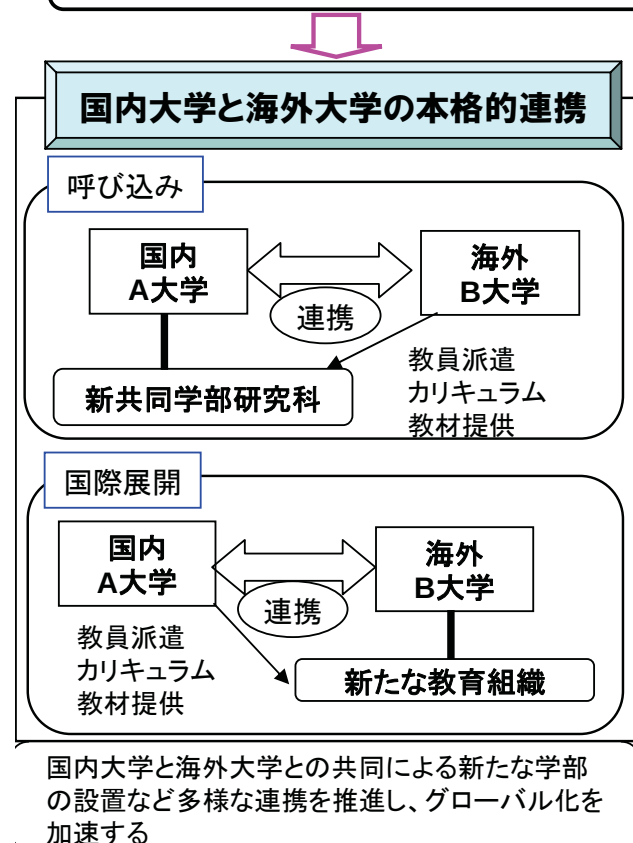
※国立大学改革プランを踏まえた第三期中期目標の策定・中期計画の認可へ

現状

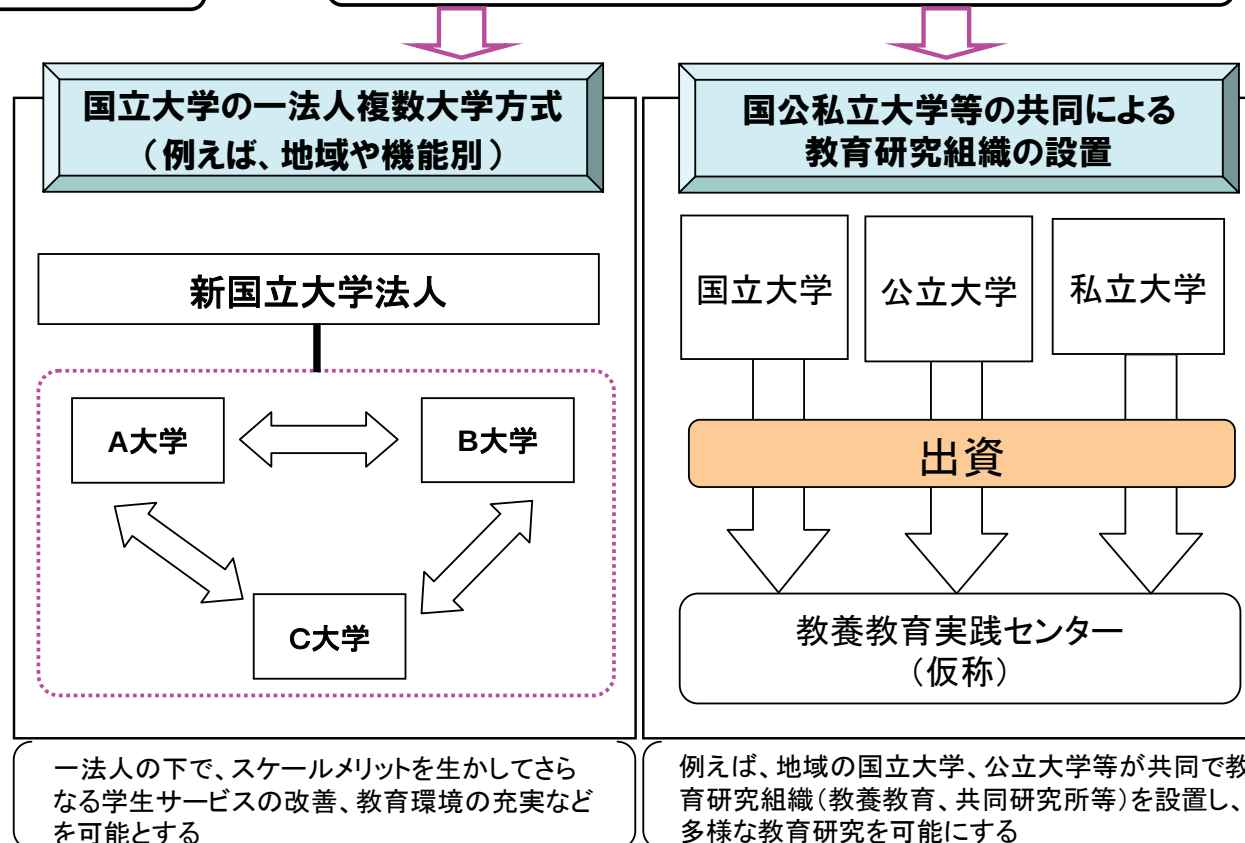
- ・これまでも、教育課程の共同実施制度の導入や、同一都府県内にある国立大学同士の統合等の取組は実施
- ・大学の機能(国際競争力のある人材育成・知的基盤の形成等)の一層の強化のためには、さらに多様な大学間連携が必要

- ◆ 大学の機能を再構築し、強化する視点から、連携方策を拡大。
- ◆ 大学の主体的判断により、これまでできなかった取り組みが可能となるよう検討。

I. 戦略的な国際展開のための大学連携の促進



II. 連携のための多様な制度的枠組みの整備



大学改革実行プラン

～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～



平成24年 6月



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

大学ビジョンの策定

◇ 国としての大学政策の基本方針

【主な項目等】

- 20～30年後を展望した日本の将来像、求められる人材像、社会的課題に対応した教育・研究の国家戦略
- 産業構造の変化等に対応した高等教育、大学教育に対する進学需要
- 大学の果たすべき役割・機能と課題（人材育成、イノベーション創出、地域貢献等）
- 大学政策の方向性

大学政策の戦略的展開

教育振興基本計画

● 大学関係予算の戦略的配分

- ・大学ビジョンに基づく配分方針の策定
- ・既存の施策事業の検証・見直し 等

● 制度等の見直し・整備

- ・評価制度の改革、大学ガバナンス強化
- ・多様な大学間連携の促進のための制度整備 等

● 国立大学改革の推進

- ・ミッションの再定義
- ・国立大学改革プランの策定・実行 等

● 政策課題への計画的取組

- ・地域再生の核となる大学づくり(COC構想)の整備
- ・「主体的な学び」のための学修環境の整備 等

国立大学改革強化推進事業

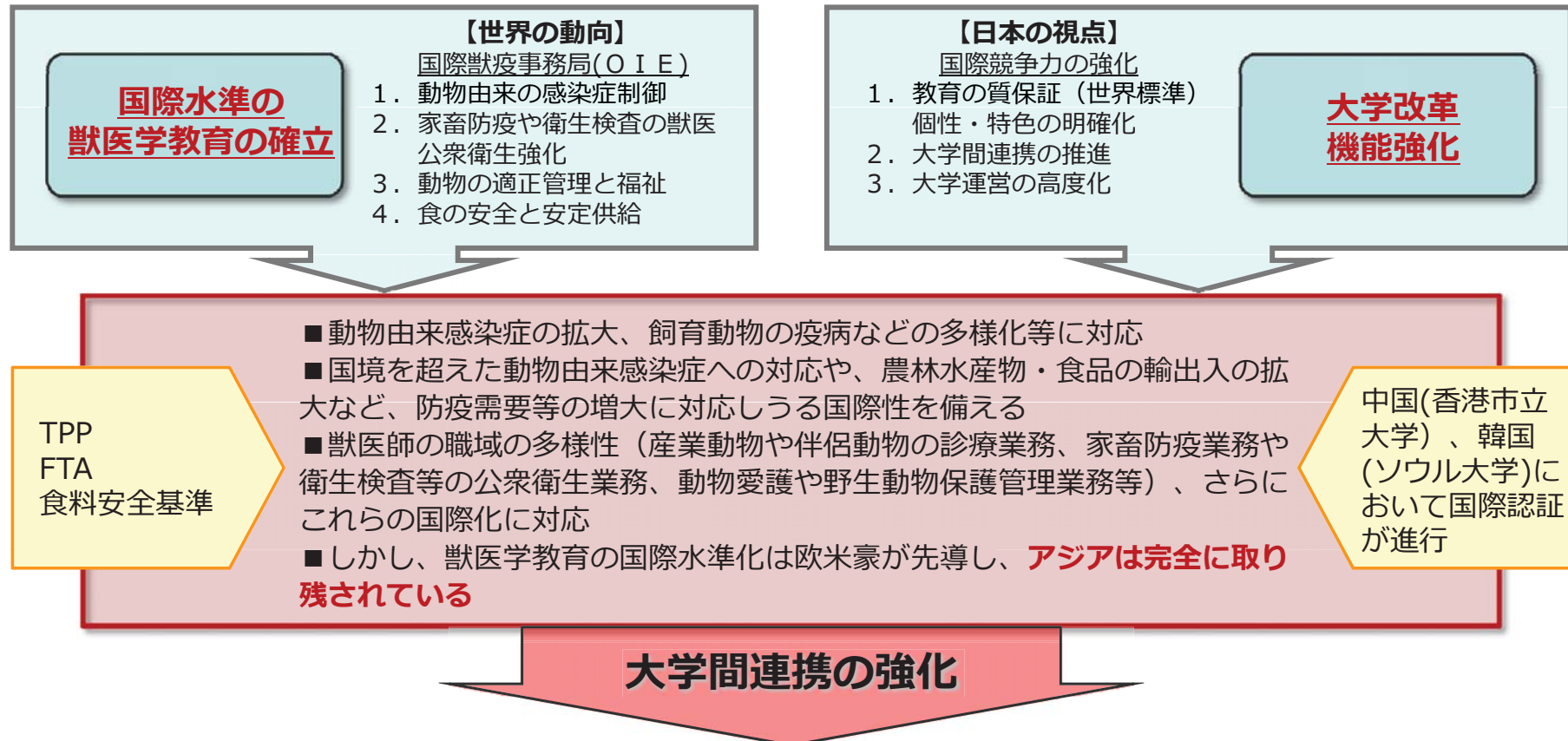
(H24: 畜大・北大)

国立獣医系2大学による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築

日本の獣医学教育改革を先導する

1.

なぜ国際水準の獣医学教育を目指すのか



- ✓ 日本の獣医学教育を向上し欧米認証を目指す→教育の質向上
- ✓ 得られた成果は国内獣医系大学に還元する→波及効果

大学改革強化推進のための国際認証と教育の強化行程

5.

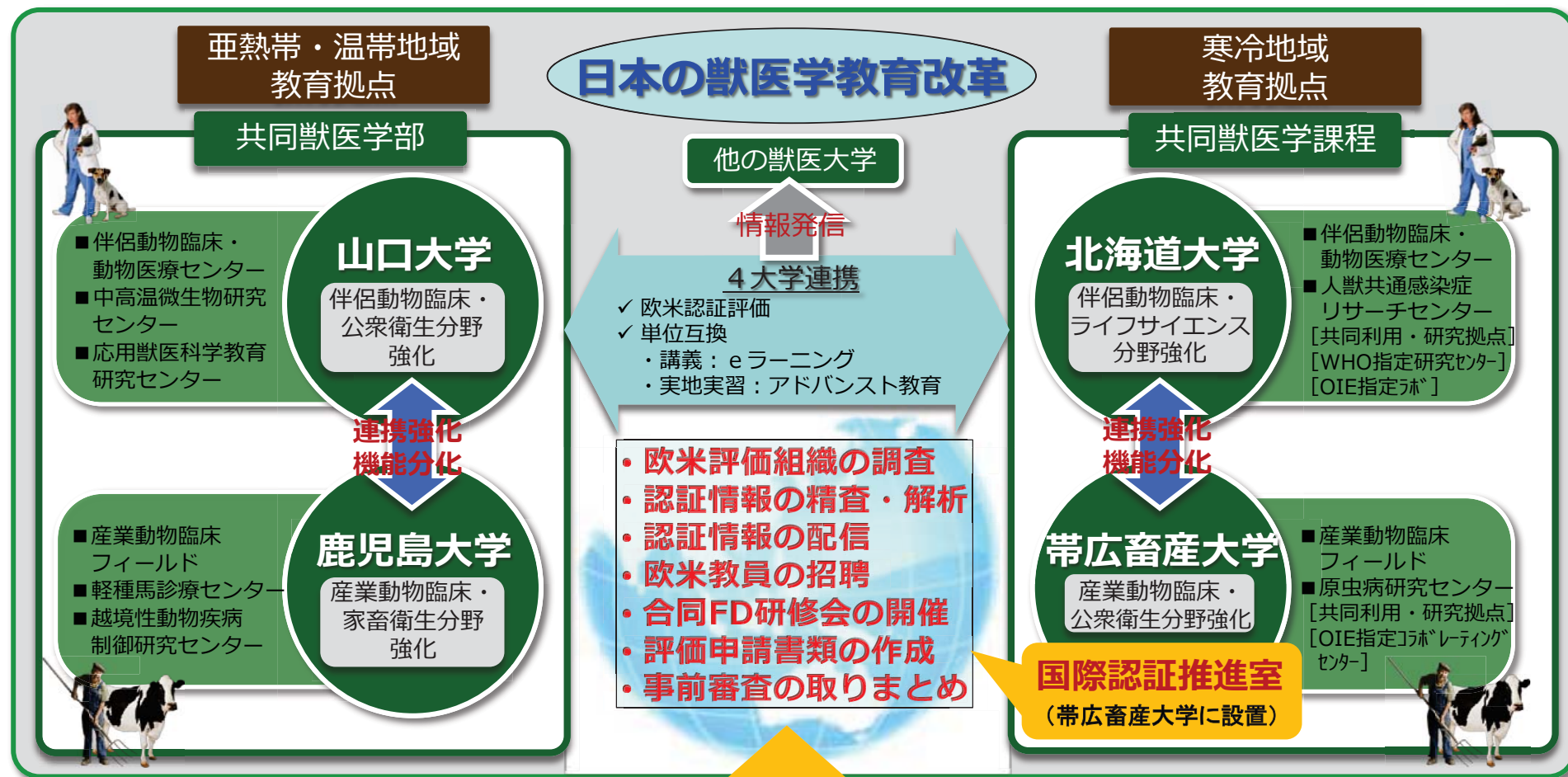
凡例 ◆両大学 ●北大 ■帯畜大の取組・整備事項等

年 度		平成24・25年度	26年度	27・28年度	29年度	30・31年度	32年度
国際認証		◆国際認証の必須条件の調査と自己評価 ◆欧米認証水準の解析とデータ構築 ◆国際認証の情報発信	◆欧米の国際認証を持つ協力大学による事前診断 ◆不足部分の把握と対策	◆事前診断評価結果に基づく改善・整備	◆欧州EAEVE公式コンサルテーション ◆不足部分の把握と対策	◆欧州EAEVE公式コンサルテーション結果に基づく改善・整備	◆欧州AEVE国際認証機関への認証申請 ◆北米認証申請準備 ◆アジア評価基準の構築
		国際評価に耐えうる体制の構築			獣医学教育の国際認証		
共同教育課程の進行		◆共同獣医学課程開始：1・2年次 ◆学生・教員相互乗り入れ	◆3年次	◆4・5年次 ◆第二期中期目標・中期計画期間修了	◆6年次（第1期生卒業）		
従来の取組		●H24：北大動物病院新棟自己整備 ●H24：北大獣医系総合研究棟改修 ●H24：北大動物病院助教2名（学内運用1、研究科内支援1） ●H24：北大放射線治療装置運用 ■H24：帯畜大ト畜場・食品衛生・製造実習棟整備 ●H22：北大講義棟自己整備 ■H22：帯畜大検査ラボ（設備）自己整備 ■H21：帯畜大動物医療センター自己整備	◆事前診断に基づく改善・整備	●国内専門分野別評価手法に対する提言とりまとめ	第三者評価機関の構築		
体制整備	組織	◆獣医学教育国際認証推進室の設置 ◆獣医学教育支援推進室（ACHIEVE）の設置 ●フィールド教育の連携	推進組織体制の整備				
	教職員	◆獣医学教育国際認証推進室：教職員配置 ◆獣医学教育支援推進室（ACHIEVE）：教職員配置 ●伴侶動物臨床：教職員配置 ●基礎系：教員配置 ■産業動物臨床：教職員配置 ■公衆衛生：教職員配置	先進的・実践的な臨床、公衆衛生、基礎教育強化の人的体制整備		◆事前診断評価結果に基づく改善・整備	◆欧州EAEVE公式コンサルテーション結果に基づく改善・整備	
設備整備・教育改善	ヒューマン・システム	◆臨床実習設備高度化整備 ◆メディア対応統合実習設備の整備 ◆実習内容の更新・改善 ●LINAC整備と通常放射線発生装置の運用 ■産業動物臨床棟の整備 ■臨床研修センターの整備 ■検査ラボの整備	●伴侶動物臨床実習新カリキュラム ■産業動物臨床実習新カリキュラム ■公衆衛生実習新カリキュラム	先進的・実践的臨床教育の強化（伴侶動物＆産業動物臨床） 実践的公衆衛生教育の強化			
	メディア・システム	◆北大ー帯畜大間ネットワーク（HONS）整備 ◆教務ポータルサイト（Vet Portal）整備 ◆メディアアーカイブ（HuMA）整備 ◆臨床メディア・オンデマンド（CMO）整備 ◆フィールド・メディア・オンデマンド（FMO）整備	■遠隔授業の開始 ■メディア教材の改訂	遠隔授業の強化 自学自習支援環境の構築		◆事前診断評価結果に基づく改善・整備	◆欧州EAEVE公式コンサルテーション結果に基づく改善・整備

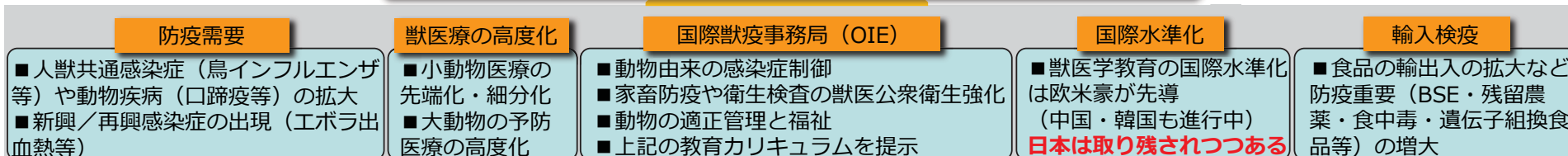
国立大学改革強化推進事業 (H24: 畜大・北大・山大・鹿大)

国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学
教育実施に向けた連携体制の構築

世界最高水準の獣医学教育拠点の形成



欧米認証を確実に取得するためのアプローチ



国立大学改革強化推進補助金

事業目的

本補助金は、国際的な知の競争が激化する中で、大学の枠を超えた連携の推進や個性・特色の明確化などを通じた国立大学の改革強化を推進することを目的としています。

平成24年度 国立大学改革強化推進事業 選定事業一覧

別紙

実施大学等	事業名	取組内容
1 北海道大学	北海道教育大学、室蘭工業大学、小樽医科大学、帯広畜産大学、旭川医科大学、北見工業大学	北海道内国立大学の機能強化について～北大を拠点とする連携体制の構築～
2 徳島大学	北海道大学、山口大学、鹿児島大学	国立獣医学4大学群による獣医学水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築
3 秋田大学		国際的資源学の世界的教育拠点形成及び次世代型学部運営の体現
4 福島大学	筑波大学、広島大学、長崎大学、東京海洋大学、放射線医学総合研究所、福島県立医科大学	環境放射線の動態と影響を解明する先端研究拠点の整備
5 筑波大学	産業体育大学、(日本スポーツ振興センター)	筑波大学と産業体育大学の連携による体育・スポーツにおける共同専攻の設置
6 東京学芸大学	北海道教育大学、愛知教育大学、大阪教育大学	大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築～教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト～
7 長岡技術科学大学	豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構、(国立高等専門学校機構)	三機関(長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構)が連携・協働した教育改革～世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者の育成～
8 金沢大学	千葉大学、長崎大学	真の疾患予防を目指したスーパーステッド医療に関する3大学(千葉・金沢・長崎)革新予防医療科学共同大学院の設置
9 名古屋大学	愛知教育大学、三重大学	アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進
10 京都大学		グローバル化に対応した学術マネジメントのための組織改革～国際高等教育院(仮称)の設置及び学部等のグローバル化の推進～
11 大阪大学		研究型大学のガバナンス改革実行プラン～「大学の中の大学」構想～
12 奈良教育大学	京都教育大学、大阪教育大学	「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業～京都府三教育大学連携による教員養成イノベーションの創生～
13 徳島大学	専門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学	西国5大学連携による知的プラットフォーム形成事業
14 九州大学		基幹教育の構築による新たな学士課程教育モデルの提唱

※実施大学等の下線が代表大学を表す



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

獣医学教育の国際的な質の保証

- 既存の代表的な認可システム
 - 北アメリカ
 - 米国獣医師会（American Veterinary Medical Association: AVMA）の教育審議会（Council on Education: COE）
 - 欧州
 - 欧州獣医学教育施設協会（European Association of Establishments for Veterinary Education: EAEVE）と欧州獣医師連合（Federation of Veterinarians of Europe: FVE）
 - オーストラリア・ニュージーランド
 - オーストラレーシア獣医療審議委員会（Australasian Veterinary Boards Council: AVBC）の獣医科大学認証諮問委員会（Veterinary Schools Accreditation Advisory Committee: VSAAC）

EAEVEでの評価項目 (Stage I/SER 1)

1. 目標 Objectives
2. 組織体制 Organization
3. 財務 Finances
4. カリキュラム Curriculum
5. 教育方法と評価法 Teaching Quality and Evaluation
6. 施設と設備 Facilities and Equipment
7. 動物教材 Animals and Teaching Material of Animal Origin
8. 図書館と教育教材 Library and Learning Resources
9. 入試試験 Admission and Enrollment
10. 教員およびサポートスタッフ数 Academic and Support staff
11. 生涯教育 Continuing Education
12. 卒後教育 Postgraduate Education
13. 研究 Research

EAEVE認証方法

- 自己評価報告書 Self-evaluation reports (SER)
- 訪問（視察）調査 Visit to the Faculty (Site visit)
 - 対応は各分野の長・学生
- 2段階評価
 - Stage I（7名のチーム：基礎の専門家、臨床の学術専門家、臨床家、動物生産の専門家、公衆衛生の専門家、**学生**、コーディネーター） Full Approval, Conditional Approval, Non-approval (**Non-EU: Limited approval**)
 - Stage II（3名のチーム：2名の専門家とコーディネーター）
 - Accreditation, Conditional accreditation, No accreditation

認証を取得するためのアクション

- 自己評価報告書（SER）の作成
- 評価に耐え得る施設、設備、カリキュラム、症例数、教育・診療体制、スタッフなどを整える

これらの必要条件・許容範囲を知るために、調査・事前診断が必要となる

List of Major Deficiencies

May 2013

A. 建物に関連した Major Deficiencies①

- 1) 病理解剖を行う施設と基本的な解剖トレーニング（解剖実習）を行う施設が別となっていない。
- 2) 小動物および大動物の解剖学的解剖および病理解剖を行うための設備（ホイスト、保管庫、特殊廃棄物処理、換気、スタッフ・学生両方の更衣室）が欠如している、あるいは不十分である。また、このような解剖施設には、**クリニックと直接連絡しない別の入り口が必要**である。

A. 建物に関連した Major Deficiencies②

- 3) バイオセーフティーおよびバイオセキュリティに対する総合的な認識や教育が不十分である。研究室およびクリニックに書面で書いた安全手順や安全設備が配置されていない（特に、関連教育研究室における目の洗浄機とシャワー、あるいはスタッフや学生にとっての潜在的な危険性を持つ生きた動物がいるクリニックでの避難ルートあるいは仕切り（パーテーション）に重点が置かれる）。建物の構造、すなわち床、壁、パーテーションなどが、適切な清掃と消毒を著しく妨げるような劣悪な状態にある。
- 4) (小) 伴侶動物、馬、および産業動物（Farm Animals）に対する適切な入院施設が欠如している、あるいは不十分である。

A. 建物に関連した Major Deficiencies③

- 5) 敷地内に管理されている動物の隔離施設が欠如している、あるいは不十分である。最低でも2つの隔離施設が必要である（1つは小動物用でもう1つは大動物用）。また、適切な空気再循環および排泄物（廃棄物）管理システムが必要である。
- 6) 家畜のための機能的な移動クリニックが欠如している、あるいは補償に関する特別な契約の約定が欠如している。
- 7) 診断および治療に関する最新のトレーニングを可能にするための適切な機器（instrumentation 計装）が欠如している。

B. 教育に関する Major Deficiencies ①

- 8) カリキュラムが必要とされている最小限教育時間数、網羅されている教科目、臨床および非臨床トレーニングの比率、講義と実習の比率、および直接学習と間接および自己学習の比率に関するEC指令2005/36 standardsに従っていない。
- 9) 各々の学生が適切な実践的な (hands-on) 解剖学的解剖と病理検査の両者あるいは一方 (and/or) を行うためには、**グループ構成人数があまりにも大きい** (10 – 12 人以上の学生数) 。

B. 教育に関する Major Deficiencies ②

- 10) 解剖学的解剖と病理検査の両者あるいは一方 (and/or) に関して、利用死体数と扱う動物種の両者あるいは一方が (and/or) 不十分である。
- 11) 主要な動物種、いずれかの講義および実習トレーニングが欠如している、あるいは不十分である。
- 12) 主要な動物種、いずれかの実践的な (hands-on) 臨床トレーニングが欠如している。
- 13) 伴侶動物、馬あるいは産業動物といった主要な動物種、いずれかの取扱い症例数が適切な実践 (hands-on) 臨床トレーニングを行うためには少なすぎる。

B. 教育に関する Major Deficiencies ③

- 14) 各々の学生が適切な実践 (hands-on) 臨床トレーニングを行うためには、グループ構成人数があまりにも大きい (5 – 6 人以上の学生数)。先生が行うことをみているだけでは、day-one-skills の要求を満たしていません。
- 15) 教員によってコントロールされていない学外実習や臨床獣医師 (非常勤教員) と学生両方によってあまり記録されていない学外実習がないか。臨床学外トレーニングは、適切な学内トレーニングに対する完全な代用トレーニングとすることはできない。

B. 教育に関する Major Deficiencies ④

- 16) 農場へのアクセスを提供する適切なプログラムがない（通常、地元の民間開業獣医師との協力関係が欠如しているために起こる）。
- 17) 少なくとも伴侶動物クリニックでの、週7日の24時間救急診療サービスが欠如している。馬クリニックでの24時間救急診療サービスはとても望ましい。
- 18) クリニック、農場、およびと畜場での動物福祉に関する原則やEU標準の適用がかなり不足している。

B. 教育に関する Major Deficiencies ⑤

- 19) と畜場での食肉衛生および食肉検査に関する適切な講義と実践教育が不十分である。
- 20) 臨床カルテが不完全、アクセス性が悪い、メンテナンスが不十分である。
- 21) 個々の学生の仕事（duties）とそれらへの出席を記録するコントロールシステムが欠如している、あるいは不十分である。
- 22) 教員の中での獣医師の割合が必要とされる最小限の基準を下回っている。

帯広畜産大学での対応状況

- * 今回の強化事業によるもの
 - 獣医学教育国際認証推進室の設置（4大学協議会の設置）：調査研究
 - 教育設備の整備
 - 教職員の拡充
 - 教育コンテンツの作成・拡充、自学自習環境の構築（予めの部分もあるが）
 - その他、事業推進に必要な経費の確保（出張、招聘など）
- * 今回の強化事業に関連するもの（施設）
 - 新築：産業動物臨床棟、病態診断棟、産業動物飼育施設
 - 改修：動物・食品検査診断センター
- * 今回の強化事業に関連して、自助努力により拡充したもの
 - 改修：解剖教育研究棟、隔離飼育施設（産業動物・伴侶動物）
 - 移転・改修：動物飼育施設（伴侶動物）
- * 大学の方針で予め拡充されていたもの
 - 食品加工実習棟（屠畜施設を含む）

欧米認証取得に向けての調査・研究 (帯広畜産大学)

- ・ 獣医学教育国際認証推進室の体制強化
 - * 推進室を学長直轄組織化
 - * 専任特任教授の配置
- ・ 欧米認証情報の調査
 - * ブタペスト大学、ミュンヘン大学および Vetsuisse Faculty を他の連携3大学に紹介し、共同で現地調査、情報共有、意見交換を行った。
- ・ 獣医学教育国際認証推進室セミナーおよび海外教員による特別講義・実習の開催
 - * 獣医学教育国際認証推進室セミナーを7回開催
 - * 海外専門医による先進的な欧米の獣医学カリキュラム紹介

帯広畜産大学での対応状況

- * 今回の強化事業によるもの
 - 獣医学教育国際認証推進室の設置（4大学協議会の設置）：調査研究
 - 教育設備の整備
 - 教職員の拡充
 - 教育コンテンツの作成・拡充、自学自習環境の構築（予めの部分もあるが）
 - その他、事業推進に必要な経費の確保（出張、招聘など）
- * 今回の強化事業に関連するもの（施設）
 - 新築：産業動物臨床棟、病態診断棟、産業動物飼育施設
 - 改修：動物・食品検査診断センター
- * 今回の強化事業に関連して、自助努力により拡充したもの
 - 改修：解剖教育研究棟、隔離飼育施設（産業動物・伴侶動物）
 - 移転・改修：動物飼育施設（伴侶動物）
- * 大学の方針で予め拡充されていたもの
 - 食品加工実習棟（屠畜施設を含む）

教育設備の整備 1 (帯広畜産大学)

- 1) 北大-帯畜大間ネットワークシステム(高速通信回線)の整備
 - 教員移動が困難な授業(EAEVE認証にとって必須となる畜産関連5科目(家畜遺伝学、家畜栄養学など)・演習科目)の提供
 - * 操作性に優れた双方向遠隔授業システム及びテレビ会議システムの導入
- 2) メディア系自学自習教育システムの整備
 - * 臨床症例、診断画像、手術映像等のデータや教材資料、基礎系・臨床系の各実習データ、さらに学外フィールドの状況や画像データをデータベース化・教材コンテンツ化する環境の整備
- 3) 高度診断医療設備や各種検査設備(病理・病原体・毒性)の整備
 - 高度な臨床(特に産業動物)、病理、公衆衛生検査等の実践教育・Hands-on(実学)実習に対応
 - * 産業動物用高度診断医療設備(CT、MRIなど)の導入
 - * 産業動物往診教育用診療や大動物運搬車の導入
 - * 病理、病原体・毒性検査・診断作業を実施するための高度な検査診断設備の導入

教育設備の整備 2（帯広畜産大学）

- 1) メディア対応統合実習システムの導入
 - * 基礎獣医学(病理学、生理学、薬理学など)関連関連の実習関連機器
- 2) 外科用高解像度デジタル撮影システムの導入
 - * 動物医療センター・病態診断棟での実習並びに自学自習用教育コンテンツ作成
- 3) 病理組織染色検査設備の導入
 - * 傷病動物を用いた生体検査実習・病理解剖診断実習でのHands-on(実学)実習を担保
- 4) 微生物同定リニアシステムの導入
 - * アドバンスト教育並びに卒後教育の実施
- 5) 国際認証情報データベースシステムの導入
 - * 獣医学教育国際認証推進室のホームページを開設予定

本年度も、Hands-on 実習・自学自習を実現するために必要な機器を導入する予定

帯広畜産大学での対応状況

- * 今回の強化事業によるもの
 - 獣医学教育国際認証推進室の設置（4大学協議会の設置）：調査研究
 - 教育設備の整備
 - 教職員の拡充
 - 教育コンテンツの作成・拡充、自学自習環境の構築（予めの部分もあるが）
 - その他、事業推進に必要な経費の確保（出張、招聘など）
- * 今回の強化事業に関連するもの（施設）
 - 新築：産業動物臨床棟、病態診断棟、産業動物飼育施設
 - 改修：動物・食品検査診断センター
- * 今回の強化事業に関連して、自助努力により拡充したもの
 - 改修：解剖教育研究棟、隔離飼育施設（産業動物・伴侶動物）
 - 移転・改修：動物飼育施設（伴侶動物）
- * 大学の方針で予め拡充されていたもの
 - 食品加工実習棟（屠畜施設を含む）

教職員の拡充（帯広畜産大学）

- * 獣医学教育国際認証推進室：特任教授
- * 産業動物臨床分野(馬内科)：教授
- * 毒性学分野：准教授
- * 解剖学分野：助教

(H26. 4. 1)

- * 産業動物臨床分野(牛内科)：教授
- * 産業動物臨床分野（外科）：助教
- * 伴侶・産業動物臨床分野（麻酔）：助教

サポーティングスタッフ

- * 臨床系4名、検査ラボ2名、病理・解剖1名（予定）

帯広畜産大学での対応状況

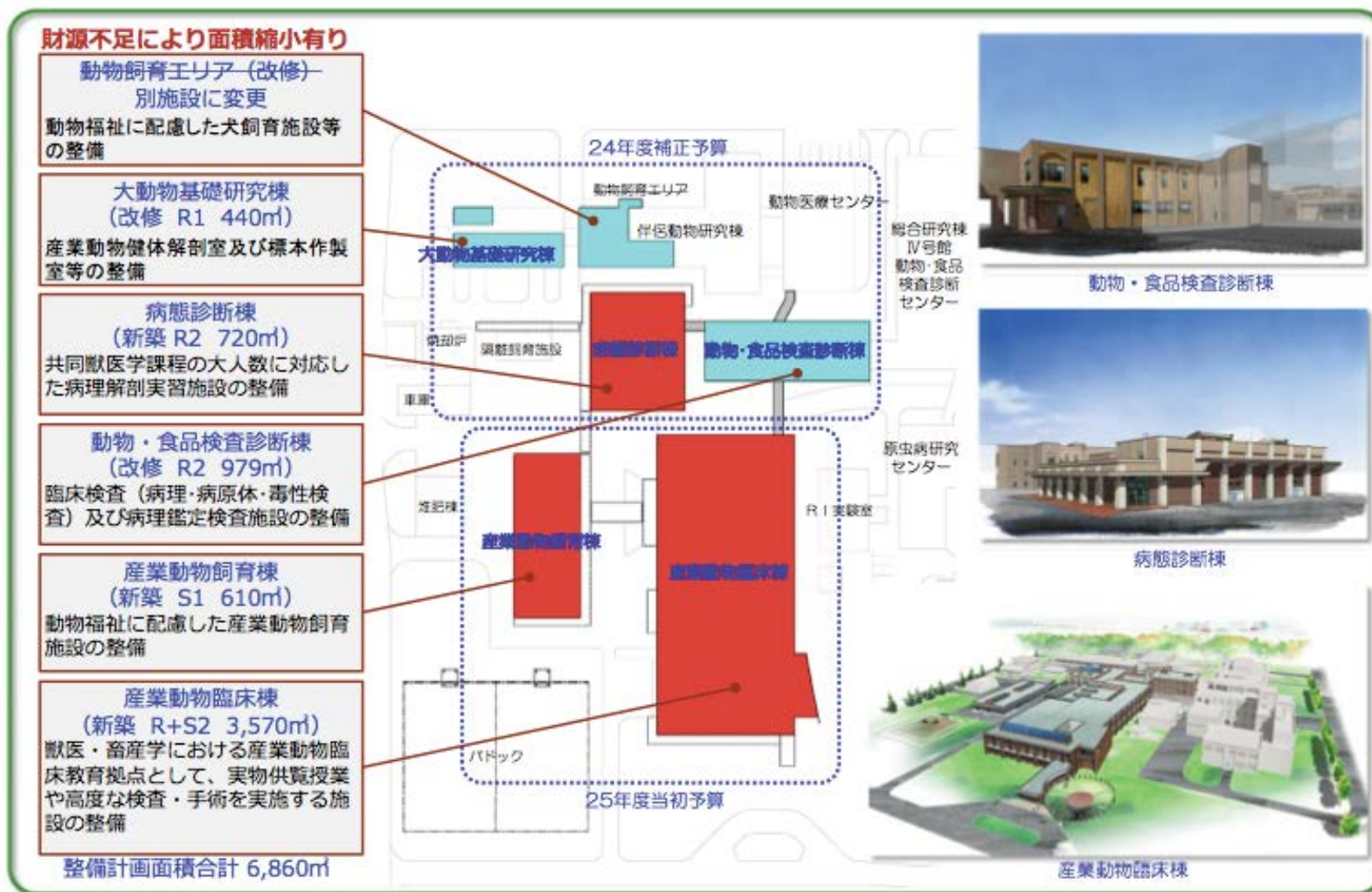
- * 今回の強化事業によるもの
 - 獣医学教育国際認証推進室の設置（4大学協議会の設置）：調査研究
 - 教育設備の整備
 - 教職員の拡充
 - 教育コンテンツの作成・拡充、自学自習環境の構築
 - その他、事業推進に必要な経費の確保（出張、招聘など）
- * 今回の強化事業に関連するもの（施設）
 - 新築：産業動物臨床棟、病態診断棟、産業動物飼育施設
 - 改修：動物・食品検査診断センター
- * 今回の強化事業に関連して、自助努力により拡充したもの
 - 改修：解剖教育研究棟、隔離飼育施設（産業動物・伴侶動物）
 - 移転・改修：動物飼育施設（伴侶動物）
- * 大学の方針で予め拡充されていたもの
 - 食品加工実習棟（屠畜施設を含む）

帯広畜産大学での対応状況

- * 今回の強化事業によるもの
 - 獣医学教育国際認証推進室の設置（4大学協議会の設置）：調査研究
 - 教育設備の整備
 - 教職員の拡充
 - 教育コンテンツの作成・拡充、自学自習環境の構築（予めの部分もあるが）
 - その他、事業推進に必要な経費の確保（出張、招聘など）
- * 今回の強化事業に関連するもの（施設）
 - 新築：産業動物臨床棟、病態診断棟、産業動物飼育施設
 - 改修：動物・食品検査診断センター
- * 今回の強化事業に関連して、自助努力により拡充したもの
 - 改修：解剖教育研究棟、隔離飼育施設（産業動物・伴侶動物）
 - 移転・改修：動物飼育施設（伴侶動物）
- * 大学の方針で予め拡充されていたもの
 - 食品加工実習棟（屠畜施設を含む）

対応（施設）

平成25～26年 欧米水準の獣医学教育の実施に向けた施設整備概要



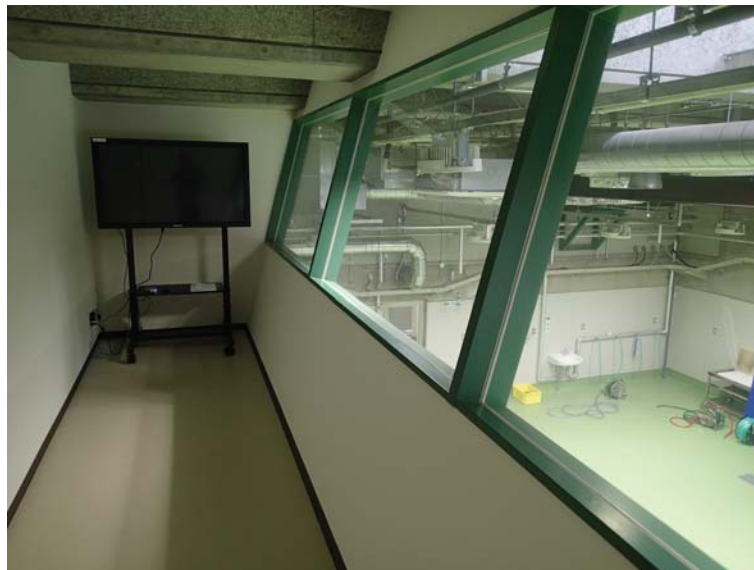
病態診断棟



病態診断棟（生体検査室）



病態診断棟・病理解剖室



大動物臨床検査室



病態診断棟

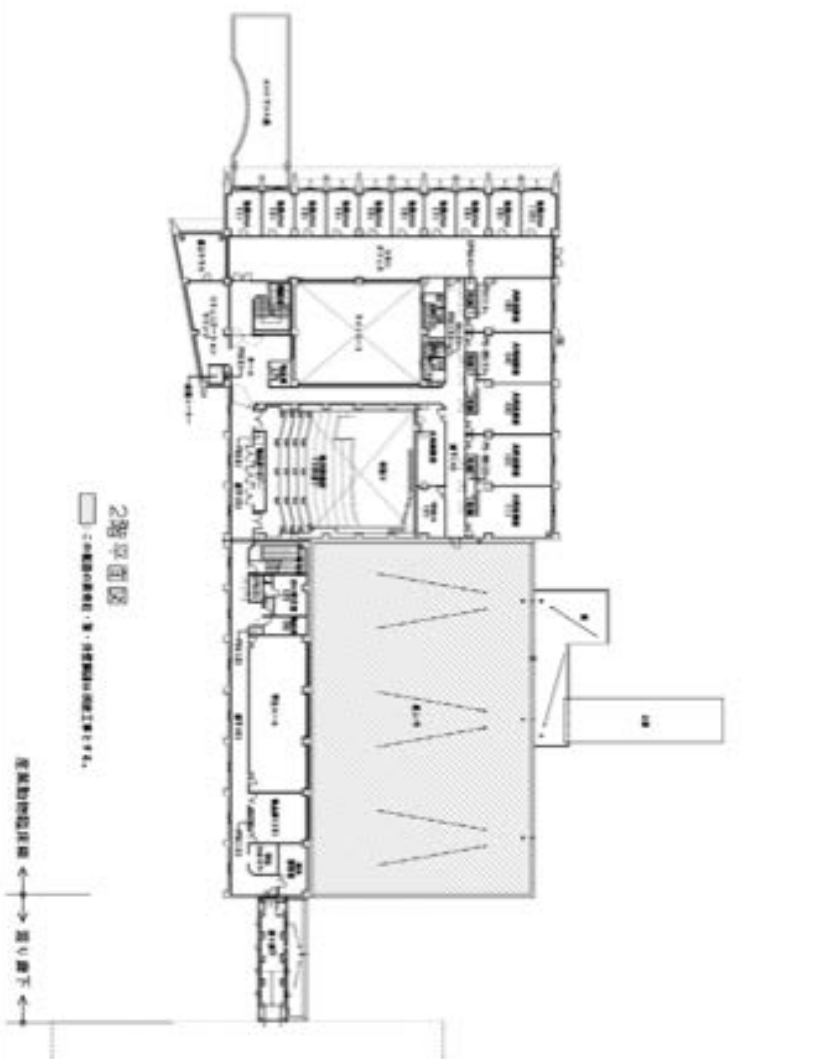


検査ラボ

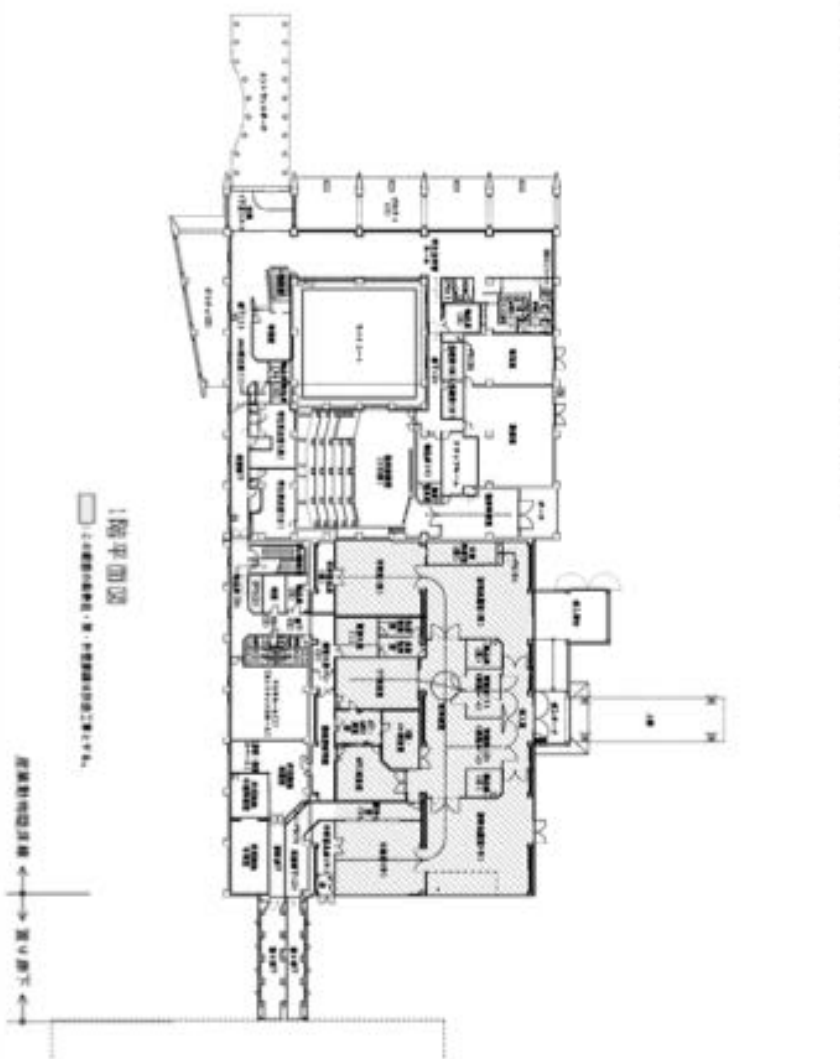


H26 産業動物臨床棟

産業動物臨床棟・地下 2階工事概略図 S=1/500(A-4)



産業動物臨床棟・地下 1階工事概略図 S=1/500(A-4)



帯広畜産大学での対応状況

- * 今回の強化事業によるもの
 - 獣医学教育国際認証推進室の設置（4大学協議会の設置）：調査研究
 - 教育設備の整備
 - 教職員の拡充
 - 教育コンテンツの作成・拡充、自学自習環境の構築（予めの部分もあるが）
 - その他、事業推進に必要な経費の確保（出張、招聘など）
- * 今回の強化事業に関連するもの（施設）
 - 新築：産業動物臨床棟、病態診断棟、産業動物飼育施設
 - 改修：動物・食品検査診断センター
- * 今回の強化事業に関連して、自助努力により拡充したもの
 - 改修：解剖教育研究棟、隔離飼育施設（産業動物・伴侶動物）
 - 移転・改修：動物飼育施設（伴侶動物）
- * 大学の方針で予め拡充されていたもの
 - 食品加工実習棟（屠畜施設を含む）

食品加工実習棟

■設置目的

「食を支え・暮らしを守る」グローバル人材育成を行う実践的な食品加工実習施設として、より実践に近い農場から食卓までの実学実習プログラムを実施するために設置。

食品の品質管理・リスク分析など、一次生産から最終消費にいたるまでの全段階で管理を行う食品安全マネジメントシステムに基づく実学実習教育の強化。

企業と連携した実学実習教育の実施

食品加工工程（と畜、肉加工、乳加工）および食品加工現場で起こりえる様々な食品衛生リスクを実践的に学ぶ。

■施設の概要

完成年月日：平成24年12月26日（3月22日使用開始）

延べ床面積：1,315㎡

■施設の特徴

- 牛、豚、鳥等の「と畜施設」は、国立大学では帯広畜産大学のみに設置されている。
- 共用管理ゾーンを中央に挟み、乳、食肉、枝肉、と畜の各作業室それぞれに更衣・洗浄室を備え、交差汚染の低減を図ると共に、床面は作業エリアの清浄度によって色を変え、清浄度の違いを視覚的に認識することが可能。
- 見学者通路を設け、食肉加工室、食品加工実習室、肉処理室、解体・内臓処理室の作業状況の見学が可能。
- 各種保健所の許可取得：食品販売業、食肉製品製造業、食肉処理業



今後

- ＊施設拡充

- 宿泊研修施設
- 図書館の充実

- ＊教育コンテンツの作成・拡充

- ＊実習拠点の形成

その他：

非公式訪問調査の結果を受けて必要（不足）部分について更に拡充

課題

【教育（方法・カリキュラム）】

カリキュラム自体は、共同獣医学課程を設置時にある程度の対応がとれているが、

- * クリニカルローテーションの規模・公衆衛生関連の講義数は大丈夫か？
- * Hands-on 教育をいかに提供するか？
- * 24時間の救急診療にどのように対応するか？
- * 代表的な動物種に対する教育（馬、牛、めん・山羊、豚、鶏、犬、猫）にどのように対応するか？

【症例数の確保】

- * 症例（臨床・病理）をいかに確保するか？